
純白と真紅

椎名魅莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純白と真紅

【Zマーク】

Z0070Z

【作者名】

椎名魅莉

【あらすじ】

ある雪が積もつて『』に起つた最悪な出来事…

「なあ……笑つてくれよ」

(前書き)

死ネタです。

苦手な人は注意！

いつたい何が起こったのか俺は未だに理解できない。

アイツはなつにわたりまで俺の隣で笑つてて…

雪で白く彩られた道を一人で歩いていて…

寒そうにしてて、アイツに俺は自分の白いマフラーを首に巻いてやつて…

それから…

雪でスリップした車が俺らに突進してきて…

アイツは俺を突き飛ばして…

俺はその時、目の前の出来事がゆっくり、ゆっくりと過ぎ去っていく感覚に陥った。

俺を助けてはねられたアイツは雪の上に倒れていって…

純白の雪はだんだん真紅に染まつていった。

俺が渡した白いマフラーも真紅に染まってゆく。

「さあ、救急車……早く……」

通行人が叫ぶ。

アイツの周りには人だかりが沢山できていって、一人雪の上に座つて
いる俺にはまるでテレビの中の出来事のように思えた。

手術室から医者が出でくる。

「石崎紫さんをお亡くなりになりました」

その言葉が頭に響く。

「死んだ……？ アイツが……？」

「いや、も懸命に処置は施したのですが出血が止まら……」

言訳のように並べる言葉。

電話をしたら急いで来たアイツの母親が、地面に崩れ落ちる。

何も喋らず、ただずっと泣いているおばさんを見て、いたたまれなくなり、俺はアイツがいると思われる手術室の中に入つていった。

「あつーちゅうと君ーー」まだ中にいた医者達に止められる。

だが俺は無視して入つて行く。

手術台には白い布を顔にかけられているアイツがいた。

布をはぎすと皿を開じているアイツの顔。

「なあ……何で俺を助けたんだよ……何で突き飛ばした……？……なあ……何か答えろよ！……」

医者達は俺を止めるのをやめ、静かに出ていく。

「なあ……笑ってくれよ……いつもみたいにわ……なあ……紫……」

この類を云うモノを涙だと理解するのと、その時間はからなかつた。

(後書き)

不謹慎ですよね暗くてすいません。

無性に死ネタ + 雪で書きたくなつてしまつたんです……本当にいためんなさい。

最後まで読んでくれてありがとうございます。(^ - ^)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0070z/>

純白と真紅

2011年11月30日16時54分発行